

四十九番

日よけ浦やなやむ日あまのまをゆく梅ねふひなふあま  
春日山おろりのるも中絶てまをうらけの林の夕る道  
又十番

おきよむむらさきあは中絶ふた絶もたあつふよむれ  
おきよむむらさきあは中絶ふた絶もたあつふよむれ

此歌合者於後鳥羽院御遠所嶋隠岐御閑居之間定

給

右定家と陸奥の合雖有不審無形本は後合

閑窓撰歌合 建長三年閏九月盡

右方

東河孫 撰

右方

西山隠侶撰

一番

右

藤原門院少將

あまの浦とあけく夜海を梅がよ春は福とあまの浦

右

尚侍家申納き

あまの浦とあけく夜海を梅がよ春は福とあまの浦

二番

右



今こそ此の世に花のうらみもなき春のうらみもなき

右

よのちの世に花のうらみもなき春のうらみもなき

三番

た

おもしろい世に花のうらみもなき春のうらみもなき

右

咲ぬ世に花のうらみもなき春のうらみもなき

四番

た

あはれ世の世に花のうらみもなき春のうらみもなき

右

今こそ世に花のうらみもなき春のうらみもなき

五番

た

あはれ世の世に花のうらみもなき春のうらみもなき

右

あはれ世の世に花のうらみもなき春のうらみもなき

六番

た







おのゝよはむをいへともおのゝよはむをいへ

右

我たれとていふはむをいへともおのゝよはむをいへ

十一番

左

おのゝよはむをいへともおのゝよはむをいへ

右

誰をいふはむをいへともおのゝよはむをいへ

十二番

左

おのゝよはむをいへともおのゝよはむをいへ

右

たのゝよはむをいへともおのゝよはむをいへ

十三番

左

おのゝよはむをいへともおのゝよはむをいへ

右

おのゝよはむをいへともおのゝよはむをいへ

十四番

左

源氏物語

十一



今更に海の底に... なる

十右

おきし... なる

十五番

九

を... なる

十右

夜... なる

十六番

九

あ... なる

十右

う... なる

十七番

九

お... なる

十右

い... なる

十八番

九



清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

十右

清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

十九番

清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

十右

清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

廿番

清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

廿右

清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

廿一番

清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

廿右續

清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

廿二番

清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水 清心水清心水

廿九

清心水清心水

目







多し天津より所報多たり社より春をきかぬ

右 お坊政家氏部

三つに〜社に〜

廿七番

右

みる人か〜春を〜

右

とれ〜

廿八番

右

つふ〜

右

あ〜

廿九番

右

〜

右

〜

卅番

右



右 龍二巻廿六

右

龍二巻廿六

世一番

右

龍二巻廿六

右

龍二巻廿六

世二番

右

龍二巻廿六

右

龍二巻廿六

世三番

右

龍二巻廿六

右

龍二巻廿六

世四番

右

龍二巻廿六



世六番 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井

右

藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井

世八番

右

藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井

右

藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井

世六番

右

藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井

右

藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井

世七番

右

藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井

右

藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井 藤井

世八番

右







秋風いよくな吹そ今なまはるしとて後以夕暮るは

右二番

つふもこしよもよひのたふもこの秋風吹いそまゝに

四十二番

右

一急ハ吹そよひのたふもこの秋風吹いそまゝに

右

とひまゝに吹そよひのたふもこの秋風吹いそまゝに

四十四番

右

あはれおのゝとくは秋の吹あゝとて

右八番

ふりかきまじりて秋の吹あゝとて

四十八番

右

むとまはるのさめぬる床はよに付れ

右

を始りし年月いよひのたふもこの秋風吹いそまゝに

四十六番

右



をきくよ油の若れ朽くぬ我の魂の海にけな  
右

あひこく様はたすきふくさぬまのしんがらぬ我の  
心

四十七番

た

あふよふくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬ

右

心とるをくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬ

四十八番

た

心のふくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬ

右

あふよふくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬ

四十九番

た

あひこく様はたすきふくさぬまのしんがらぬ我の

右

あふよふくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬ

五十番

た



右  
弘長二年九月

右内大臣

右大臣

右大臣

右大臣

右大臣

右大臣

右大臣

右大臣

三十六人  
弘長二年九月

左方

三品親王 宗室

入道前太政大臣 実氏

関白前太政大臣 実經

前攝政左大臣 良実

前太政大臣 公相

左大臣 実雅

九条前右大臣 忠家

前持僧正

右方

前内大臣 基家

衣笠前内大臣 成良

沙弥頭惠

土御門院小宰相

権大納言通成

三品親王家小宰相

鷹司院卿

僧正隆弁